

## 研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： 遠隔臓器間の病態伝播を担う内在性微粒子 microparticle の機能解明

2. 個人研究者名

江口 暁子（三重大学大学院医学系研究科 特任准教授（研究担当））

3. 事後評価結果

本課題では、障害肝細胞から放出される内在性微粒子／細胞外小胞（HC-EV）が遠隔臓器間の病態伝播体ではないかという、江口氏のこれまでの研究に基づいた作業仮説を、疾患モデルマウスを材料にして検証することを目標にし、ヒトの慢性肝疾患患者への展開も目指した。非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）モデルマウスおよび進行NASH（Ad NASH）モデルマウスを作製し、さらに遠隔臓器に障害を発生させた慢性肝疾患マウスの作製にも成功した。病態伝播に関わるHC-EVの成分同定を進め、さらにヒト血中EV成分との比較検討も進めている。

本研究は、慢性肝疾患の終末期に、骨格筋の異常（サルコペニア）や脳や腎臓の病態が見られる原因に、細胞外小胞による遠隔伝播が関与する可能性を示す世界でも初めての研究結果であり、将来的には慢性肝疾患からの合併症を予測するバイオマーカーや、合併症を抑制できる治療法の開発へと発展させることが期待できる。

江口氏は、領域内の研究者たちと、そしてまた外部の研究者たちと精力的に共同研究を進めてきている。特許出願の都合もあり、原著論文が発表できていないが、今後成果を着実にまとめていくことを期待している。